

第22期海外探検隊報告書

内容

- 1) 志望動機調査
- 2) 不安要素調査
- 3) グローバルコンピテンシー調査

調査時期: 2024年2月(渡航前)、3月(帰国後)

報告時期: 2024年4月

グローバル教育研究推進機構

小松 俊明 tkomat0@kaiyodai.ac.jp

派遣学生数: 11名

派遣国: アジア2カ国(ベトナム・タイ)

男子4名、女子7名

低年次
学生

1年生: 6名 (55%)

2年生: 3名 (27%)

82
%

高年次
学生

3年生: 2名 (18%)

18
%

総論： 第22期を終えて

2013年以來、海外探検隊に参加した学生は第22期までで延べ332名に至り、毎回2つのキャンパスから、多様な学科と学年の学生が参加する。参加者の多くは、大学に入学前のオープンキャンパスなどで海外探検隊の存在を知ったという学生が多く、入学後、すぐに海外探検隊プログラムに応募して選抜された1年生の学生が目立つ。最近の傾向としてTOEIC L&R の点数が特別に高い学生は目立たない。むしろ進級要件の600点をクリアしたばかりの学生の参加が多く、海外探検隊プログラムへの参加に対するハードルが学生間で下がってきていることは歓迎したい。

プログラムを導入してから最初の5年~10年間は、学生達がグローバルへの挑戦をことさら難しく考えすぎて、参加に躊躇する学生が多かった時代もあった。しかし、今では海外探検隊には1, 2年生までに参加して、そこでの経験を活かして大学生生活後半に、さらに高みを目指した挑戦を計画している学生が目立つようになってきている。

海外探検隊に参加後、さらにTOEIC L&Rの勉強に身が入るようになった学生も多く、長期留学や海外の大学院に進学する事例も増えてきた。こうした成果は、グローバル人材育成推進事業に本学が採択された当時の目標が、10年の時を経過して顕在化してきた証と言えるだろう。

今後、海外派遣プログラムに参加を希望する学生の推移を見守りながら、より質の高いプログラムを用意していきたい。

海外探検隊の歴史と現状 (派遣国:8カ国～アジア5カ国、欧州3カ国)

海外探検隊プログラム(科目名:海外派遣キャリア演習または長期学外実習(海外)、2単位)は、2013年8月に第1期派遣を2カ国(シンガポールとタイ)で同時に始めた。以来、少しずつ派遣国を増やし、年2回夏季休暇の8月と春期休暇の3月に約1か月間の海外派遣を実施してきた。以下、プログラム開発の経緯について整理したものである。

- * 2013年夏(第1期): シンガポールとタイプログラムを開始
- * 2014年夏(第3期): 台湾と中国プログラムを開始
- * 2015年春(第4期): マレーシアプログラムを開始(第10期以降休止)
- * 2015年春・夏(第4期・第5期): ニュージーランドプログラムを実施(第6期以降休止)
- * 2016年夏(第7期): ノルウェープログラムを開始、海洋工学部学生の参加により全学展開
- * 2018年夏(第11期): ベトナムプログラムを開始(アジア5カ国目)
- * 2019年春(第12期): アイルランドプログラムを開始(英語学習プログラム開始)
- * 2019年夏(第13期): イギリスプログラムを開始(英語学習プログラム開始)
- * 2020年春(第14期): コロナ禍で一部プログラムを派遣中止(第15期から19期までは中止)
- * 2022年夏(第20期): シンガポール、タイ、ベトナムへの派遣を再開、現在に至る

派遣人数は、各国原則4名としている。コロナ前は、アジア5カ国と欧州3カ国に合計28～30名(夏季・春季の年間合計は56～60名程度)の派遣者数で安定していたが、コロナ禍を経て、現在はアジア3カ国への派遣を実施している(2022年夏派遣より派遣を再会)

〈海外探検隊派遣者数〉

(人)

派遣先	1期	2期	3期	4期	5期	6期	7期	8期	9期	10期	11期	12期	13期	14期	19期	20期	21期	22期	合計
	2013夏	2014春	2014夏	2015春	2015夏	2016春	2016夏	2017春	2017夏	2018春	2018夏	2019春	2019夏	2020春	2022夏	2023春	2023夏	2024春	
シンガポール	4	4	4	5	4	4	4	4	6	4	4	4	4	6	4	4	4		73
タイ	8	4	4	4		2	4	6	4	4	4	4	4		7	4	3	7	73
中国			4	4	3	4	4	4	4	8	8	4	4						51
台湾			2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4						42
マレーシア				4	4	4	6	6	8										32
ノルウェー							4			4		4	4	4					20
ベトナム											4	4	4			4	3	4	23
アイルランド												6		4					10
イギリス													5						5
ニュージーランド*				2	1														3
合計派遣者数	12	8	14	23	16	18	26	24	26	24	24	30	29	14	11	12	10	11	332

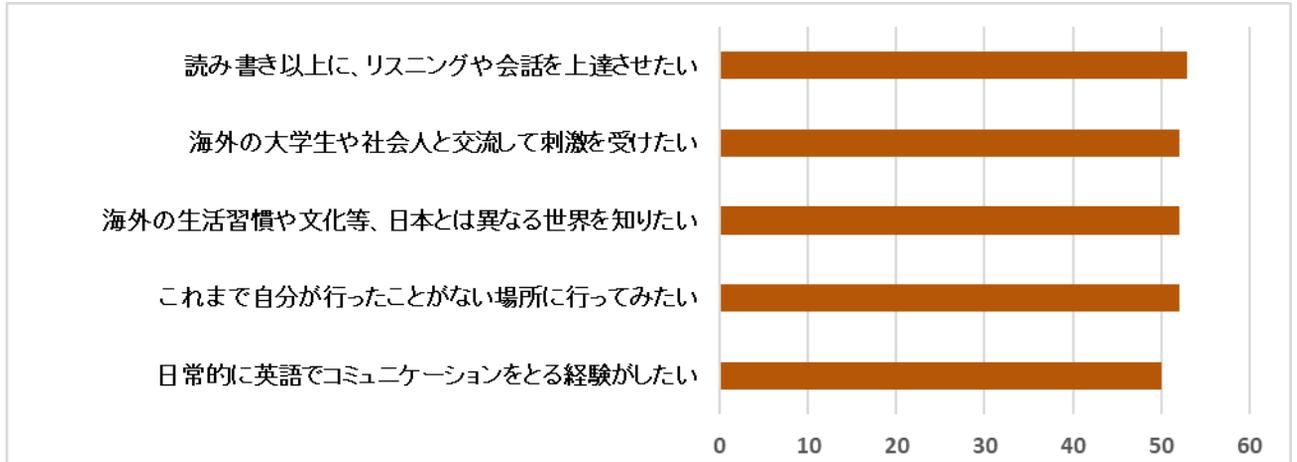
1) 志望動機 / 調査・質問表 (渡航前、帰国後)

目的: 学生の志望動機を把握してプログラム開発に役立てるとともに、必要な指導内容を確認する。

5		4		3		2		1	
非常にあてはまる		あてはまる		ややあてはまる		あまりあてはまらない		全くあてはまらない	
Motivation for Application - 志望動機			項目	Details of the Reasons for Application - 志望動機の詳細				重み(1~5点)	
Interest in Overseas - 海外への関心 -	未知なるものを知る	1	国を挙げて経済成長を実現していることに関心がある						
		2	新しい技術革新や戦略的な取り組みに関心がある						
		3	当該国が直面する社会問題への対処法について関心がある						
		4	多民族が共生する社会を形成した経緯に関心がある						
	異質なものを知る	5	これまで自分が行ったことがない場所に行ってみたい						
		6	海外の生活習慣や文化等、日本とは異なる世界を知りたい						
		7	海外企業(海外の日系企業を含む)で働くことに関心がある						
		8	海外の大学生活や学べる内容について関心がある						
Cultural Exchange - 異文化交流 -	関係性を学ぶ	9	当該国と日本との文化交流について関心がある						
		10	当該国と日本とのビジネス交流について関心がある						
		11	当該国の国民と日本人との相性に関心がある						
		12	当該国の世界とのつながりについて関心がある						
	現地で交流する	13	海外に同世代の外国人の友人を作りたい						
		14	現地で働く社会人との交流に関心がある						
		15	現地の家庭へのホームステイに関心がある						
		16	ボランティアや国際協力活動に挑戦してみたい						
Business & Research Training - ビジネス & リサーチ研修 - (派遣先に該当研修がない場合でも プログラム応募時の志望動機を反映 して回答してください)	ビジネス研修	17	海外の現地ビジネスマンや日本人駐在員と話をしてみたい						
		18	会社の仕組みや業界事情、そして仕事の流れを学んでみたい						
		19	働く時間や就労意識など、日本と海外の違いを知りたい						
		20	仕事の魅力や大変なところを身をもって体験してみたい						
	リサーチ研修	21	研究活動の基本について学びたい						
		22	日本と海外の研究活動の違いや共通点を知りたい						
		23	早い段階から研究室に参加して、研究活動を経験してみたい						
		24	海外の研究テーマや手法を学び、研究の海外人脈を作りたい						
Language & Skill Development - 語学やスキル開発 -	語学習得	25	日常的に英語でコミュニケーションをとる経験がしたい						
		26	英語でプレゼンテーションができるようになりたい						
		27	ビジネスや研究で、英語を支障なく使えるようになりたい						
		28	読み書き以上に、リスニングや会話を上達させたい						
	スキル習得	29	社会人マナーやビジネスマナーを身に着けたい						
		30	いろいろな場面で有効なビジネスメールの書き方を習得したい						
		31	社会人の考え方、動き方、スピード感等を身に着けたい						
		32	グローバルな環境で仕事をするためのスキルを身に着けたい						
Growing Experience - 自己実現と成長 -	意識改革	33	新しいことに挑戦することで、もっと自分を鍛えたい						
		34	休暇期間を有効に使って、さらなる成長を実現したい						
		35	海外の大学生や社会人と交流して刺激を受けたい						
		36	グローバル社会で活躍する人材を目指したい						
	実績作り	37	海外生活を体験し、日本とは異なる環境でサバイバルしたい						
		38	海外の大学で学んだり、海外にある企業で働く経験がしたい						
		39	早い段階で海外体験をして、将来の就活等でアピールしたい						
		40	中長期の留学等、より難易度の高い挑戦への第一歩としたい						
志望動機は? (記述必須)									

22期生志望動機調査(渡航前)(上位5項目)

最大値55pt (5点 x 11名)



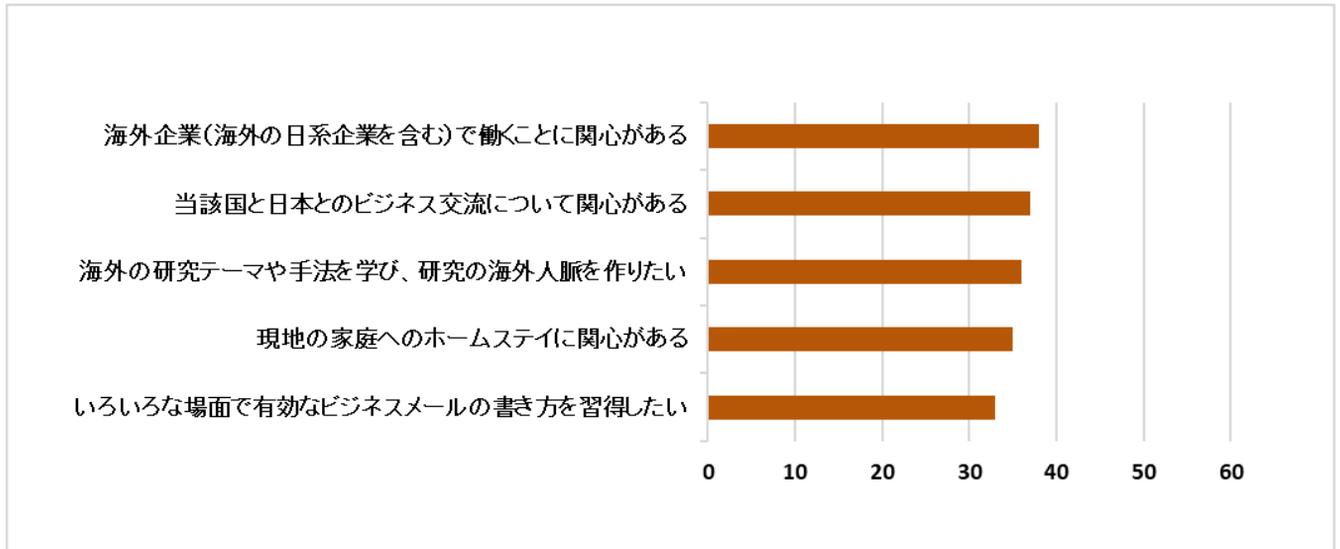
傾向

- 1) 海外体験1、2回目の学生が中心のため、まずは異文化への挑戦に関心が高い。
- 2) 低年次学生の参加が多い中、企業や研究体験等の早期教育(先取り)に高い関心を示している。
- 3) 英語カプスアルファ(英語プレゼン力等)習得への関心が高く、総じて自分を鍛えたい学生が多い。

→ 低年次のやる気の高い学生が参加者に多く、先取り教育や苦手克服をサポートする。

22期生志望動機調査(渡航前)(下位5項目)

最大値55pt (5点 x 11名)



傾向

- 1) 派遣国の歴史や特殊事情等に対する知識や関心が、応募時点では十分に醸成されていない。
- 2) 将来グローバル企業で働き、海外駐在したいという、海外志向が学生の間で強いわけではない。
グローバル時代を意識している学生でも、将来のキャリアの選択で海外志向が強いとは限らない。
- 3) グローバルな社会問題や多民族の共生(移民問題)等、現代社会が抱える問題に目が向いてない。

→ 目先でやるべきことは意識しているが、それが長期ビジョンに基づいていないので支援が必要である。

帰国後 上位志望動機順	順位	帰国前 志望動機順
1 語学習得	1 語学習得	読み書き以上に、リスニングや会話を上達させたい
2 異質なものを知る	2 異質なものを知る	これまで自分が行ったことがない場所に行ってみたい
3 異質なものを知る	3 異質なものを知る	海外の生活習慣や文化等、日本とは異なる世界を知りたい
4 語学習得	4 意識改革	海外の大学生や社会人と交流して刺激を受けたい
5 スキル習得	5 語学習得	日常的に英語でコミュニケーションをとる経験がしたい
6 意識改革	6 意識改革	グローバルな環境で仕事をするためのスキルを身に付けたい
7 意識改革	7 リサーチ研修	新しいことに挑戦することで、もっと自分を鍛えたい
8 語学習得	8 語学習得	日本の海外の研究活動の違いや共通点を知りたい
9 語学習得	9 実績作り	海外生活を経験し、日本とは異なる環境でサバイバルしたい
10 意識改革	10 実績作り	早い段階で海外体験をして、将来の就活等でアピールしたい
11 意識改革	11 異質なものを知る	海外の大学生や学べる内容について関心がある
12 未知なるものを知る	12 意識改革	グローバル社会で活躍する人材を目指したい
13 リサーチ研修	13 未知なるものを知る	国を挙げて経済成長を実現していることに関心がある
14 実績作り	14 未知なるものを知る	新しい技術革新や戦略的な取り組みに関心がある
15 実績作り	15 関係性を学ぶ	当該国と日本との文化交流について関心がある
16 異質なものを知る	16 現地で交流する	現地での働く社会人との交流に関心がある
17 スキル習得	17 リサーチ研修	研究活動の基本について学びたい
18 実績作り	18 語学習得	英語でプレゼンテーションができるようになりたい
19 実績作り	19 スキル習得	社会人マナーやビジネスマナーを身に付けたい
20 未知なるものを知る	20 ビジネス研修	体験期間を有効に使うことで、さらなる成長を実現したい
21 リサーチ研修	21 意識改革	当該国が直面する社会問題への対処法について関心がある
22 関係性を学ぶ	22 未知なるものを知る	当該国の世界とのつながりについて関心がある
23 現地で交流する	23 関係性を学ぶ	当該国の現地ビジネスマナーや日本人駐在員と話をしてみたい
24 現地で交流する	24 実績作り	海外の大学で学んだり、海外にある企業で働く経験がしたい
25 スキル習得	25 未知なるものを知る	多民族が共生する社会を形成した経緯に関心がある
26 関係性を学ぶ	26 現地で交流する	海外に同世代の外国人の友人を作りたい
27 関係性を学ぶ	27 ビジネス研修	海外の現地ビジネスマナーや日本人駐在員と話をしてみたい
28 現地で交流する	28 スキル習得	グローバルな環境で仕事をするためのスキルを身に付けたい
29 現地で交流する	29 実績作り	中長期の留学等、より難易度の高い挑戦への第一歩としたい
30 ビジネス研修	30 現地で交流する	会社の仕組みや業界事情、そして仕事の流れを学んでみたい
31 ビジネス研修	31 ビジネス研修	仕事の仕組みや業界事情、そして仕事の流れを学んでみたい
32 スキル習得	32 ビジネス研修	仕事の魅力や大変なところを身をもって体験してみたい
33 未知なるものを知る	33 関係性を学ぶ	当該国の国民と日本人との相性に関心がある
34 関係性を学ぶ	34 リサーチ研修	早い段階から研究室に参加して、研究活動を体験してみたい
35 ビジネス研修	35 スキル習得	社会人の考え方や働き方、エピソード等を身に付けたい
36 リサーチ研修	36 異質なものを知る	海外企業(海外の日系企業を含む)で働くことに関心がある
37 リサーチ研修	37 関係性を学ぶ	当該国と日本とのビジネス交流について関心がある
38 異質なものを知る	38 リサーチ研修	海外の研究テーマや手法を学び、研究の海外人脈を作りたい
39 ビジネス研修	39 現地で交流する	現地の家庭へのホームステイに関心がある
40 未知なるものを知る	40 スキル習得	いろいろな場面で有効なビジネススキルの書き方を習得したい

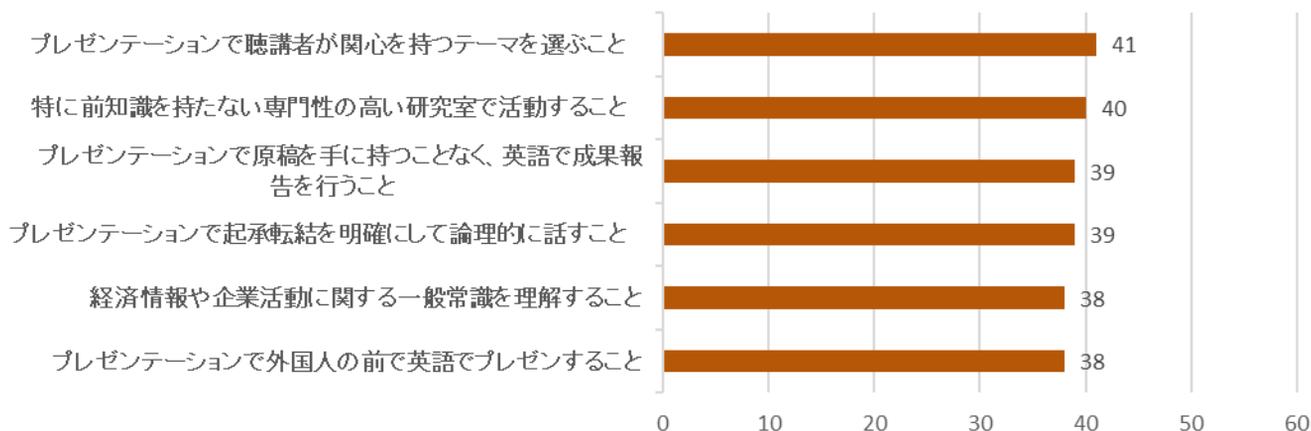
2) 不安要素 / 調査・質問表 (渡航前のみ)

目的: プログラムに参加することを希望した学生が、不安に感じている内容を事前に把握する。

5	4	3	2	1
非常にあてはまる	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
Anxiety Elements - 不安要素		項目	Details of the Reasons for Anxiety - 不安要素の詳細	重み (1~5点)
Living Overseas - 海外滞在への不安 -	海外経験	1	気候や食べ物が違う場所に行くこと	
		2	過去に行ったことがない場所に行くこと	
		3	治安・交通事情・文化・価値観などが違うこと	
		4	物理的に日本から遠く離れていること	
	自立経験	5	親元から長期間離れて生活すること	
		6	食事や健康管理を自分の責任で行うこと	
		7	知らない者同士で集団生活をする事	
		8	洗濯や炊事など身の回りの世話を自分でやること	
Language - 言語への不安 -	コミュニケーション	9	海外大学や企業など、主に英語を使うこと	
		10	読み書きよりも、聞く・話す能力が必要であること	
		11	自分の使用する英語が相手に通じないこと	
		12	主体的に相手との議論に参加すること	
	プレゼンテーション	13	外国人の前で英語でプレゼンすること	
		14	起承転結を明確にして論理的に話すこと	
		15	聴講者が関心を持つテーマを選ぶこと	
		16	原稿を手を持つことなく、英語で成果報告を行うこと	
Knowledge & Experience - 知識と経験への不安 -	専門知識	17	ビジネスマナーや社会の一般常識を理解すること	
		18	経済情報や企業活動に関する一般常識を理解すること	
		19	特に前知識を持たない専門性の高い研究室で活動すること	
		20	大学院レベルの研究活動に参加すること	
	社会経験	21	毎日規則正しい時間に通勤・通学すること	
		22	社会人と一緒に長い時間を過ごすこと	
		23	相手の仕事を邪魔したり、失礼がないこと	
		24	組織の信用を失墜させるような迷惑をかけること	
Interpersonal Skill - 人間関係への不安 -	対人関係	25	初対面の相手とも自ら相手に近づいて仲良くすること	
		26	世代の異なる社会人を相手と積極的に話をする事	
		27	自分とはタイプの違う海外の学生とも交流をすること	
		28	自分だけが外国人という場面でも積極的に輪に入っていくこと	
	集団生活	29	海外で1か月間の集団生活をする事	
		30	生活習慣や意見の相違を相談して解決すること	
		31	一人になれる自由な時間があまりないこと	
		32	相性が合わない相手と長時間一緒にいること	
Personality & Attribute - 性格と特性への不安 -	自己管理	33	失敗して落ち込んでも気持ちを切り替えること	
		34	規則正しく睡眠をとり、体調管理をしっかりと行うこと	
		35	日報・メール対応・プレゼン準備などを遅延なく行うこと	
		36	約束の時間に遅れることなく、時間管理を徹底すること	
	参加意欲	37	常に前向きに考えて、どんなことにも積極的に参加すること	
		38	事前に予習したり、準備を行うことで、学びを最大化すること	
		39	損得だけでなく、経験値を高めるために活動的になること	
		40	苦手なことでも、臆することなく挑戦してみること	
不安要素は？ (記述必須)				

22期生不安要素調査（上位5項目）

最大値55pt（5点×11名）



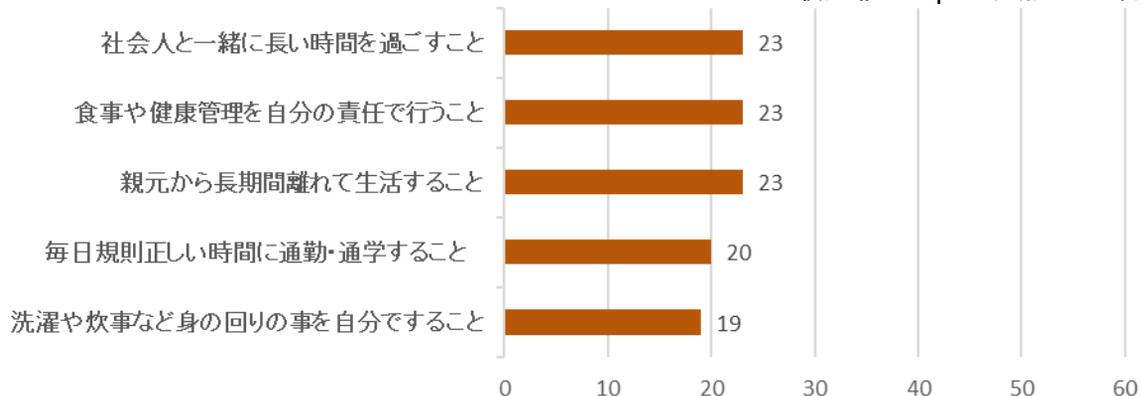
傾向

- 1) 研究体験の先取りを希望する学生は多い反面、未経験の研究活動への不安を抱えている。
- 2) 英語力への不安、論理的な討論をすることへの不安を抱えている。

→ 優秀な海外学生や社会人との交流に期待半分、不安半分な様子が見て取れる。専門的な研究に取り組む大学院の研究室に配属されることに不安と期待があるため、サポートが必要である。

22期生不安要素調査（下位5項目）

最大値145pt（5点×29名）



傾向

- 1) 親元から離れて自立した生活を1か月間送るに対する不安は少ない。
- 2) 学生とは違う社会人の生活リズム（フルタイムで、毎日規則正しい時間にプログラムが予定されていること）に対応することに期待と不安が入り混じっている。

→ 親元から離れた海外生活に不安を感じない学生が多い。一方、熱帯のアジアへの夏季派遣であるため、気候や食事の違いなど体調管理への不安に対して、サポートしていくことが大切。

3) グローバルコンピテンシー / 調査・質問表

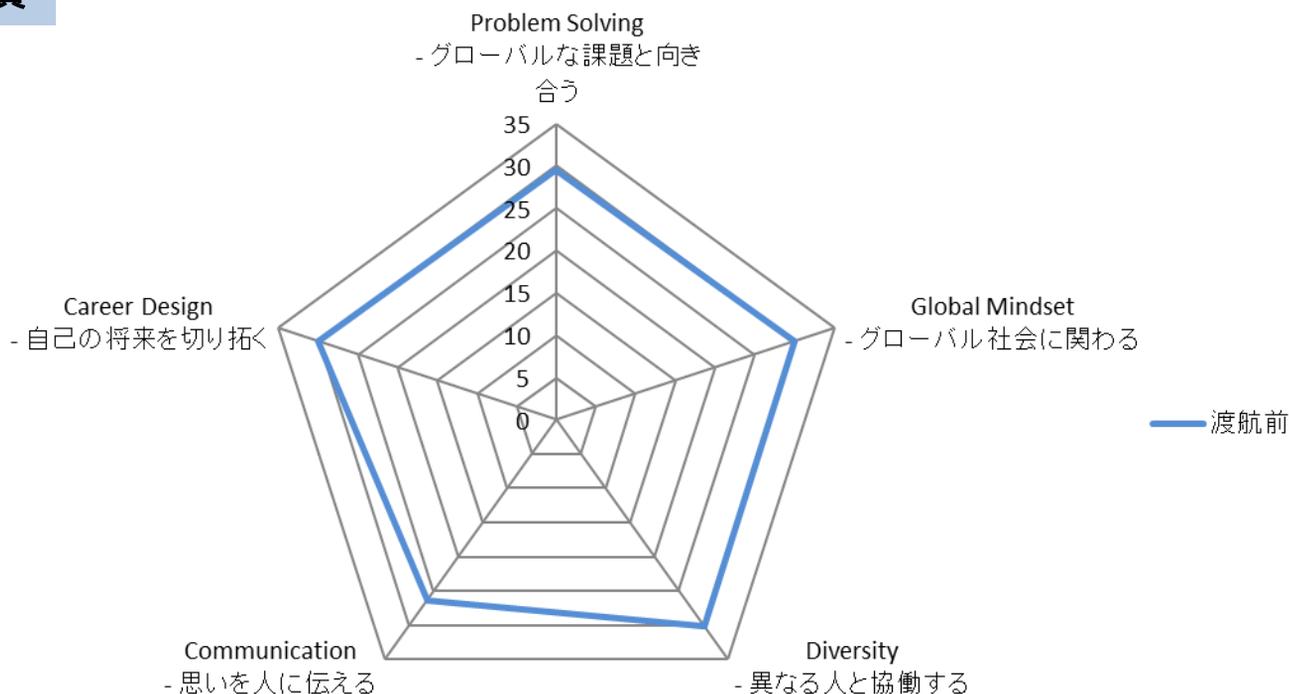
目的: グローバル人材に必要なスキルや意欲を現時点でどの程度有しているかを自己評価する。

5	4		3	2	1
非常にあてはまる	あてはまる		ややあてはまる	あまりあてはまらない	全くあてはまらない
Global Competency - グローバル人材の基礎能力		項目	Self Evaluation - 自己評価項目		重み(1~5点)
Problem Solving - グローバルな課題と向き合う -	課題を発見する力	1	計画を立てて行動することができる		
		2	新しいアイデアを考えることが好きである		
		3	何事も自分が最初に始めることが多い		
		4	現状を分析し、課題を明らかにして提案することができる		
	論理的・批判的に考える力	5	世界の出来事について、家族、友達、先生等とよく話をする		
		6	なぜそうなるのか、物事を掘り下げて考える習慣がある		
		7	疑問点が出てきたら、インターネットや書籍等ですぐに調べる		
		8	1つの視点でなく、複数の視点から物事を考える習慣がある		
Global Mindset - グローバル社会に関わる -	新しい経験への積極性	9	新しく始めたことは、たいてい最後までやり遂げる		
		10	世界の出来事について関心が高く、いつも情報収集している		
		11	世界にある未知の土地について、色々調べるのは楽しい		
		12	未知の分野や土地に積極的に飛び込んでみたい		
	冒険心と危機管理	13	新しい環境に行ってもあまり緊張せず、何とかやっつけていける		
		14	異なる環境にも早く順応し、新しい友人を作ることができる		
		15	思うようにいかない場合でも、自分は我慢できるほうである		
		16	必要に応じて、リスクをとることができる		
Diversity - 異なる人と協働する -	多様性の受容力	17	異なる文化や慣習に関心がある		
		18	自分と違う考えや行動パターンを持つ人とも仲良くしている		
		19	外国人を含め、知らない人ばかりの集まりに入っていける		
		20	同じ人とばかり付き合うのではなく、学内外に人脈が多い		
	協同して課題を解決する力	21	目的に向かって、周りの人を動かしていくことができる		
		22	全体を考えて、仲間に助言や注意することもできる		
		23	自分の役割に責任を持ち、周りにも協力することができる		
		24	グループの中で、効果的に仕事をしてチームに貢献できる		
Communication - 思いを人に伝える -	情報を発信する力	25	相手の考えを引き出して、よく人の話を聞くことができる		
		26	自分の考えをまとめて、わかりやすく説明することができる		
		27	人前で話をすることや、司会をすることができる		
		28	定期的に情報発信をするメディアがある		
	母国語以外の言語で伝える力	29	自分の考えを異なる言語(英語等)で相手に伝えられる		
		30	語学力の向上に向けて継続的に勉強している		
		31	自分の考えを英語でプレゼンテーションすることができる		
		32	英語以外の第二外国語にも挑戦する必要があると考えている		
Career Design - 自己の将来を切り拓く -	グローバル化に向けた意識	33	海外の人とコミュニケーションする機会を増やしたい		
		34	世界の情勢に高い関心がある		
		35	将来は海外出張や駐在に積極的に挑戦したい		
		36	日本企業や公務員等ではなく、グローバル企業で働きたい		
	グローバル社会に貢献する志	37	グローバルに共通した課題(水、食料、資源等)に関心がある		
		38	グローバルに共通した課題の解決に関わる仕事がしたい		
		39	世代を超えて、海外に広くネットワークを築きたいと思う		
		40	海外で知り合った人とは、今後も末長く交流を続けたい		

グローバル人材とは？ (記述必須)

22期生グローバルコンピテンシー調査（渡航前1ヶ月以内に実施）

全員



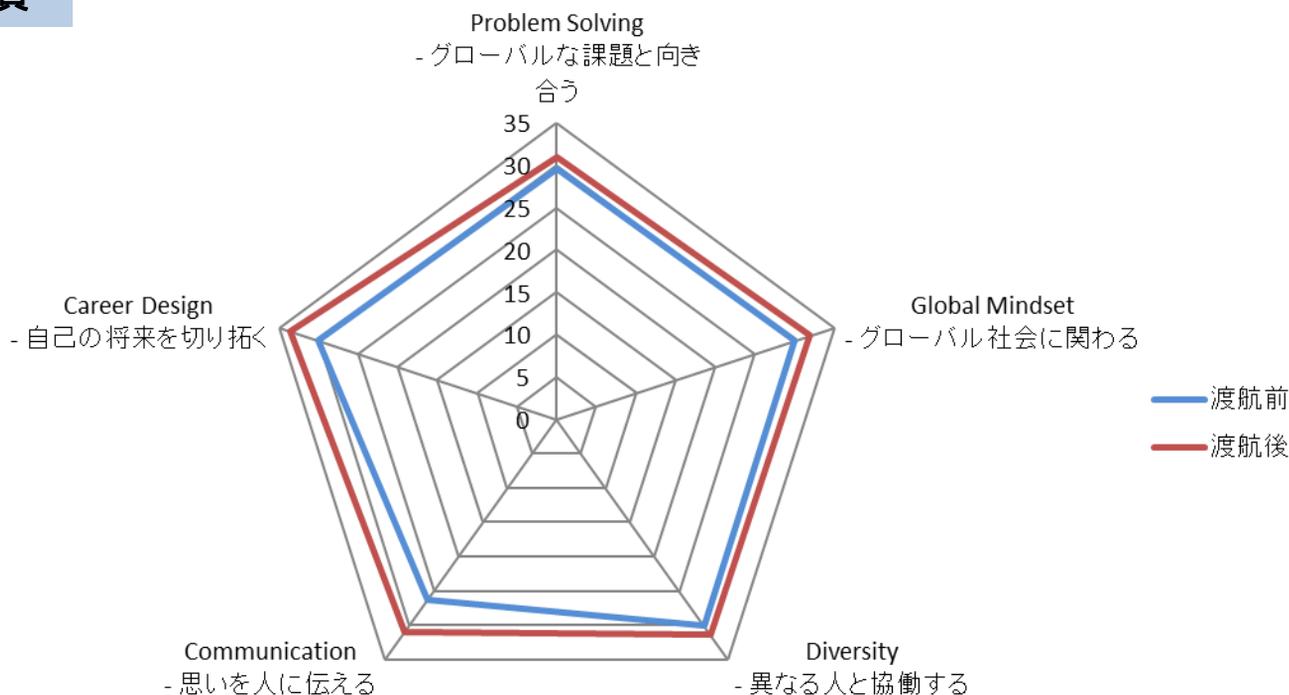
特徴

他の項目と比べて「思いを人に伝える(コミュニケーション能力)」に対する自己評価が低い数字が出ている。このため、海外探検隊プログラムでは、現地での報告会を実施するなど、アウトプットの機会を増やして、学生が持つ苦手意識の克服に配慮したプログラムとしている。

帰国後、1カ月以内(2024年4月)に再度同内容のアンケート調査を実施
(海外探検隊プログラムに参加後、自己評価にどのような変化が起きたかを測定)

22期生グローバルコンピテンシー調査（帰国後1ヶ月以内に実施）

全員

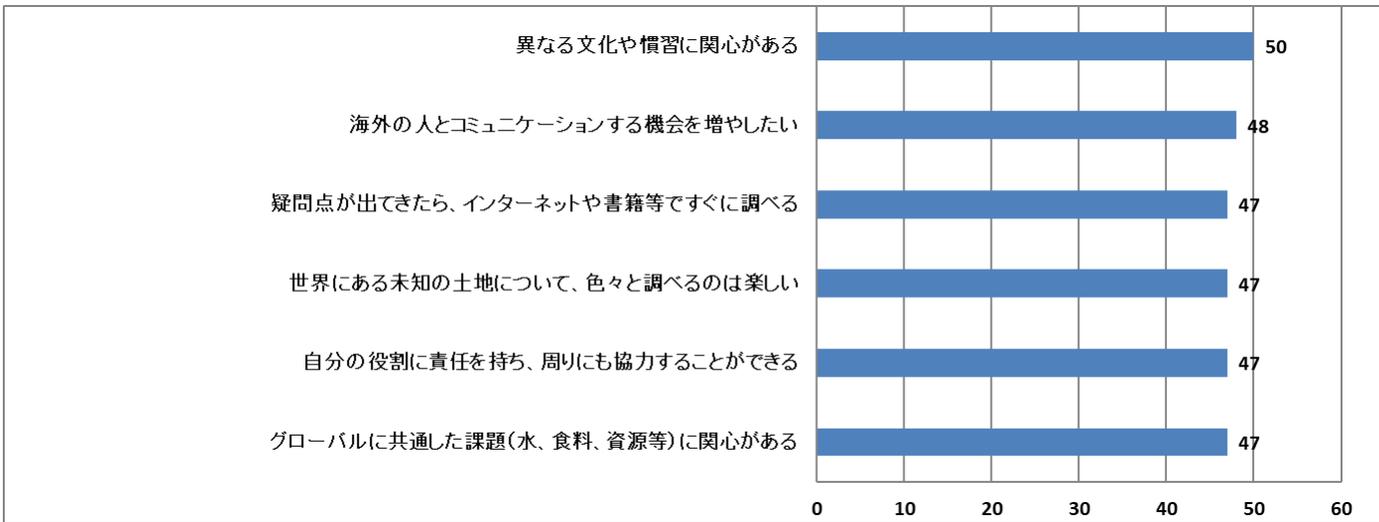


特徴

- * 「自己の将来を切り拓く」という意識が、プログラムに参加したことで伸び率が一番高い。一方、渡航前調査で数字が低かった「思いを人に伝える（Communication）」項目の数字も大きく伸びている。海外大学の学生と交流したことで、自己の将来を切り拓くキャリアデザインの意識が向上している。
- * すべての項目においてバランスよく得点が上昇しており、学生達の自己肯定感が高まっていることが本調査からうかがえる。

22期生グローバルコンピテンシー調査（上位5項目・渡航前）

最大値 55pt（5点 x 11名）



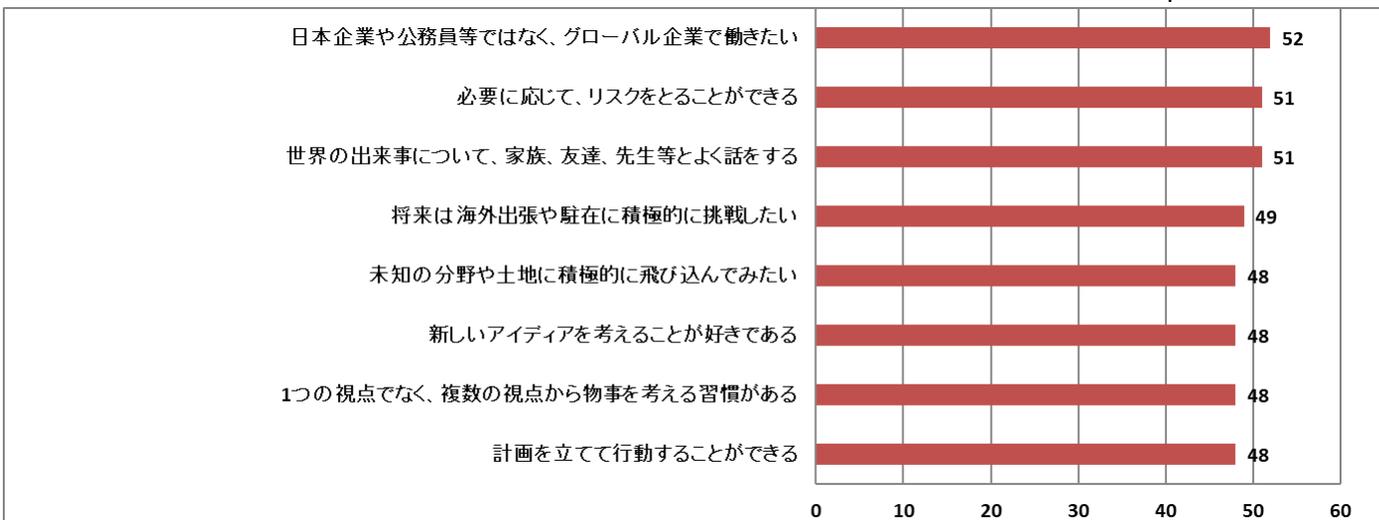
傾向

- 1) 渡航前の時点から、グローバルに向けた意識が一定程度あることがうかがえる。
- 2) 未知の世界に対する関心があり、異文化理解には積極的な姿勢がある。

→ 異文化理解や交流、そして仕事や研究の先取り経験を希望する背景には、既存の大学生活の中ではグローバルコンピテンシーを育成する機会が十分ではないことに学生達が気づいていることがあげられる。

22期生グローバルコンピテンシー調査（上位5項目・渡航後）

最大値 55pt（5点 x 11名）

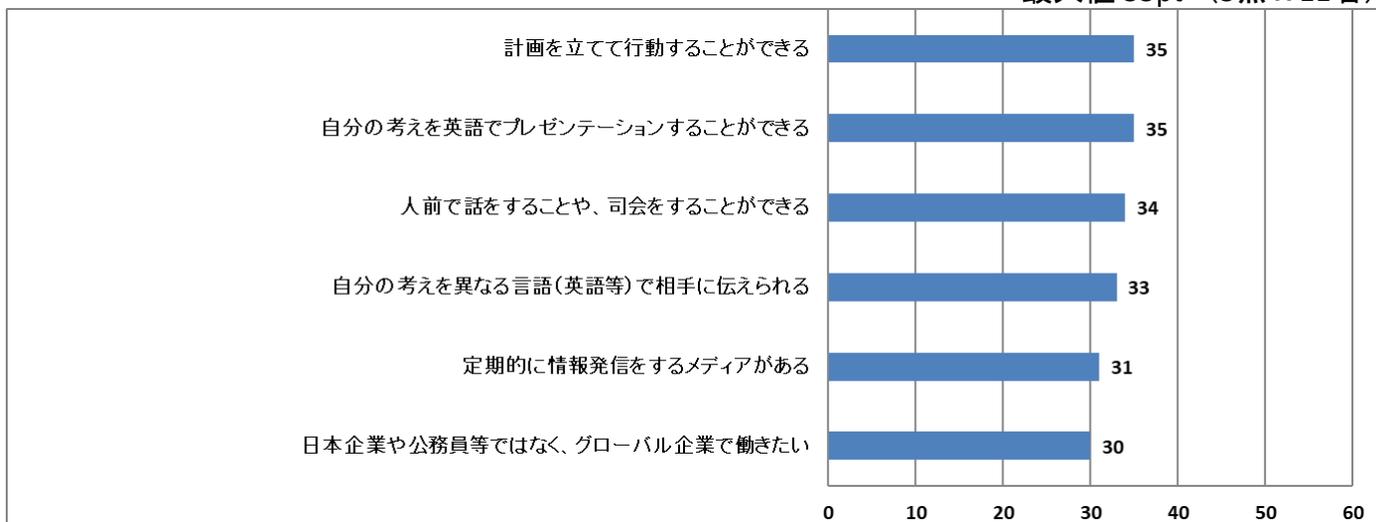


傾向

- 1) 将来グローバルに活躍したい意識が強まり、それが具体的な選択肢として見えてきている。
- 2) プログラムに参加したことで具体的な行動に移せたことで自信をつけ、自己肯定感が高まっている。

22期生グローバルコンピテンシー調査 (下位5項目・渡航前)

最大値 55pt (5点 x 11名)



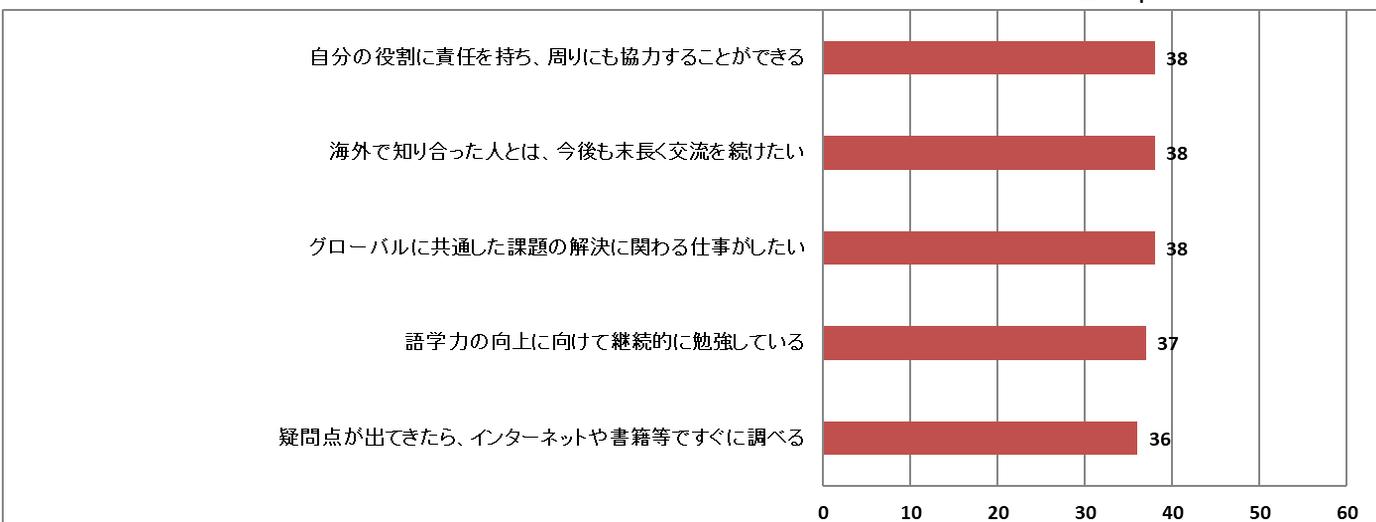
傾向

- 1) 総合的なコミュニケーション能力、プレゼン能力、英語力等、課題があることに気づいている。
- 2) 将来のキャリアについて、まだ具体的なビジョンは定まっていない。

→ 語学学習やコミュニケーション力向上に向けた支援プログラムについて案内することが必要。

22期生グローバルコンピテンシー調査 (下位5項目・渡航後)

最大値 55pt (5点 x 11名)



傾向

- 1) 今後の大学生活で、次にどのような挑戦をしていくべきか、まだ思案している学生が多い。
- 2) 語学力やプレゼン力など、自分の課題を把握したもの、まだそれらを解決していくための道筋が見えていない。

→ 海外探検隊プログラムを終えた後、次に挑戦できる様々な学内の機会について学生に指導することが必要。

総論： 第23期に向けて

コロナ禍で停滞してしまったグローバル教育をできるだけ早く元の軌道に戻せるように、アジア各国の連携を強化しつつ、今後もプログラムの質向上を目指していく。日本固有の事情にとらわれず、グローバル時代らしく、いろいろな面で先行するグローバルな大学がモデルにして、東京海洋大学ならではの独自性のあるユニークなプログラムの実施を目指していく。

急速な物価上昇に直面した第22期の海外派遣では、物価が高いシンガポールへの派遣をいったん中止してタイ派遣に振り替えたが、第23期派遣では、様々な対策を講じることで、シンガポール派遣を実現することになる。

第22期の海外派遣では、タイとベトナムの主要な協力機関からプログラムと今後のこうりゆに関する詳細のフィードバックを得ているため、その内容を検証してプログラム運営に反映し、より充実したプログラムへと進化させていく所存である。

海外探検隊

東京海洋大学 グローバル教育研究推進機構

代表電話番号 03-5463-0816